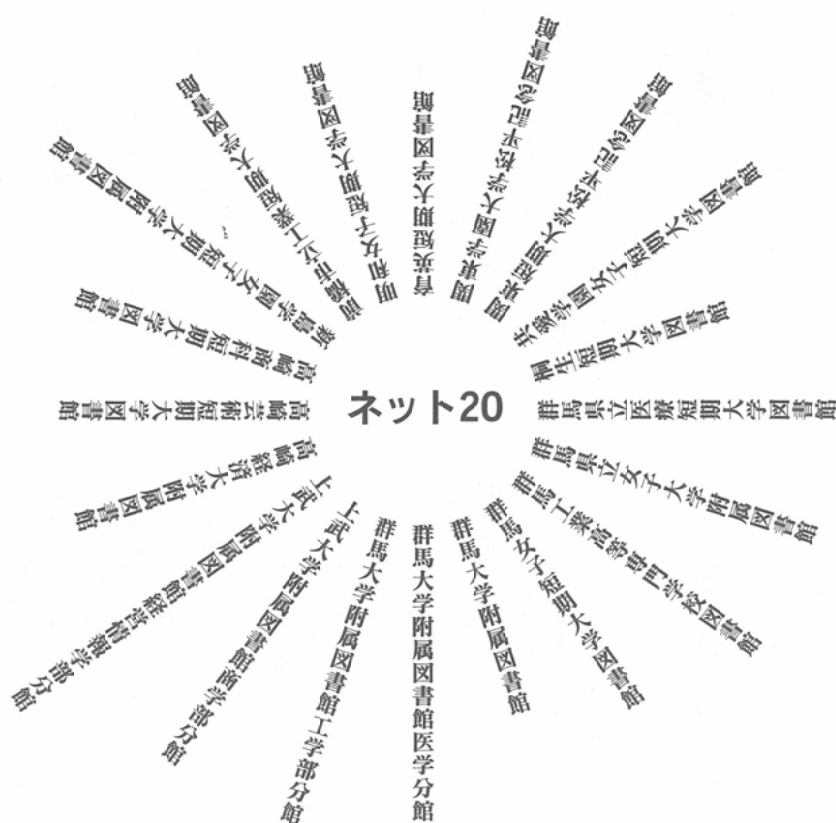




群馬県大学図書館協議会会報

創刊号

1995年12月31日

群馬県大学図書館
協議会 発行

〒371

群馬県前橋市荒牧町
4-2

群馬大学附属図書館気付

TEL 0272-20-7178

FAX 0272-20-7184

会長あいさつ

常任幹事館
群馬大学附属図書館長

永倉 一郎

群馬県大学図書館協議会は、県内の大学、短期大学及び高等専門学校、図書館相互の協力を目的に平成六年度から発足しました。

二年目にあたる平成七年度は、事業計画として、①大学図書館研究会の実施、②『相互協力便覧』及び『会員名簿』の作成、③『相互協力連絡紙(仮称)』の発行の三件を総会で決定し、運営委員会を中心に検討を進め、活動することとしました。

この中で『相互協力連絡紙』の発行は本協議会の新規事業として計画されたものであり、このたび『群馬県大学図書館協議会会報』として創刊され、皆様のお手元にお届けできましたのは、会員皆様のご協力のたまものとお喜び申し上げます。

現在、各大学では学内LANの整備等が急速に進んでおり、これらに対応した図書館サービスの在

り方、学術情報流通の在り方等、大学図書館に課せられた課題も、多様化、複雑化しております。このような状況の中で、県内大学図書館等の相互協力、ネットワーク作り等、本協議会の役割もますます重要なものになって行くことと思われまます。

『協議会会報』の発行は、加盟館相互の連携を深める場を設定することにより、協議会活動を進める上でも大きな力となることが期待されます。また、同時に協議会の活動を内外に広報することにより、大学図書館からの情報発信の意義もあり、大いに楽しみです。

『相互協力連絡紙』は、当初、会員相互の情報交換を行うためのものとして構想されましたが、一方で対外的な広報も必要との意見もあり、運営委員会で選出された三名の編集委員が検討する中から、協議会の活動を対外的に知らせる広報としての会報と、会員相互の情報交換を目的とした連絡紙を、姉妹編として刊行する案がまとめられたと聞いております。本紙に続いて刊行される予定の『群馬県大学図書館協議会連絡紙』についても大いに期待するものです。

本紙並びに『連絡紙』の刊行を通じて、会員相互の連絡にとどまらず、加盟館相互の交流がより一層深まることを期待して、また、さらに有意義な会報となるよう、会員の皆様のご協力をお願いして私の挨拶といたします。

—加盟館20館のネットワーク—

相互協力を すすめる

育英短期大学

大学図書館間の相互協力を、有効な活動とする為には、各館それぞれの収集分野による所蔵資料の充実、大切な条件と考えます。協議会加盟館の一員となった事で、自館の資料内容を見直し、反省しています。今後の収集方針を建て直すきっかけとなった様です。

関東学園大学

群馬県大学図書館協議会が発足して二年、会の運営も軌道に乗って来たように思います。

今後の活動として国公立・私立の違いがあるので難しいかも知れませんが、相互協力の充実のために運営の指針として、文献複写申込み手続きに伴う書類の標準化・必要経費支払い方法の統一化などの県の図書館協議会における相互協力の規定を設けてはどうでしょうか。

関東短期大学

小さな図書館でも大きなサービスを展開、と意気込んで、日常業務の波に飲み込まれてしまう現状です。各館が足並みを揃えることは難しいかもしれませんが、対外的に提供できる参考ツールを、毎年一つずつでも積み重ねていけたらと希望しています。当面は、

「とりあえず」の連発になるかと思いますが、宜しく願います。

共愛学園女子短期大学

加盟館間の相互協力として、利用者は教職員に限定させて頂きますが、「相互利用」・「相互貸借」が可能になるとありがたいです。利用させていただくばかりになると思います。

桐生短期大学

このたび、県内の大学図書館協議会の発足に伴い、本学も一員として参加することになった。

図書館に関する情報交換は重要な課題であり、それにつけ図書利用の範囲が広がり、質的向上を図れるのは喜ばしい。

しかし、協議会の理想的な運営に当っては、各大学の特殊事情を十分考慮に入れていきたい。

群馬県立医療短期大学

文献複写や学生の訪問利用など、各館の皆様にはいつも大変お世話になり、ありがとうございます。協力事務の簡略化やネットワークを利用した情報交換で足元を固め、将来的には一般の方へも研究情報を提供できれば、意義と反響は大きなものがあるのではないのでしょうか。協議の場でのアドバイスをどうぞよろしくお願いします。

群馬県立女子大学

より早く、よりの確に利用者のニーズに応えたいと、常日頃、心

掛けているつもりですが、なかなか思うようにいかないのが現状です。インターネットの時代に備え「井の中の蛙」にならないようにいろいろな情報を提供し合い、刺激を受けたいと思います。

群馬工業高等専門学校

相互貸借の推進を！

協議会の発足に際し、一番期待していた相互貸借を行う館が余りにも少ないのに驚いた。各館が相互貸借に積極的になれない理由の一つに紛失の問題が有る。

館の事情も有りますが、利用者の立場になり、相互貸借を積極的に進進して行けたら……と思います。

群馬女子短期大学

記録情報の増大と図書館資料メディアの台頭という現在の状況において、もはや一図書館では、教員、学生の要求をすべて満足させる事はとうていできないように思います。他の図書館との相互協力体制による運営をしなければならぬ状況下で、加盟館の概要及び蔵書内容を紹介したガイドブックの作成を切に望み提案いたします。

群馬大学 本館

大学図書館等のネットワークはハード面に関しては学術情報ネットワークに接続することが早道でしょう。全国ネットの中で地域的協力も勿論できます。ただし、こうしたネットワークを支え、血を通わせていくには、図書館職員同

志の緊密なネットワーク作りが必要です。いわば、ソフト面のネットワークを県大図協で築いて行けたらと思います。

群馬大学 医学分館

学外者の利用が増えています。

入館者数を、昨年度上半期と比較すると5割強の増加になりました。協議会の設立と直接結びつくかはまだ不明ですが、開かれた図書館のイメージアップと気をよくしています。医学系ということで、あまりなじまないかと思いますが、お気軽にご利用ください。

群馬大学 工学部分館

〈大学を結ぶ輪〉

協議会が誕生し、これまで出会うことの少なかった「大学の図書館」に働く私たちが顔見知りになることが出来ました。地域のなかの相互の協力がきつとこれまで以上に進むと思います。加盟館の全蔵書およそ百五十万冊が加盟館の全構成員が利用可能な資料となるように今後の発展に期待しております。例えば横浜地区の「大学図書館相互協力」や東京西部地区の相互協力のように。

上武大学 商学部分館

十月二十七日の研究会には、多くの皆様のご出席をいただき、ありがとうございます。お役に立てたでしょうか。

図書館の電算化につまみしてご質問などございましたら、どうぞ

お問い合わせください。
 なお「上武大学図書館だより」(8号)ができますのでお送りいたします。

上武大学 経営情報学部分館

各館のみなさま、いつもお世話になり、ありがとうございます。相互協力といっても、ギブアンドテークのテークの部分ばかり大きくて、申し訳なく思っています。ギブの割合を少しずつでも、増やしていきたいというのが、現在の正直な感想です。

高崎経済大学

高崎経済大学の図書館は高崎市制施行九十周年事業の一つとして平成元年六月に新図書館の建設に着手し平成三年四月に完成。同年六月から開館しました。

平成六年十月からは他大学生にも圖書の館外貸出し(三冊・二週間以内)を開始しました。他大学生の一年間の利用者数は一、八八一人で、閲覧時より三〇〇人程増えています。

高崎芸術短期大学

「図書館相互協力」というと資料の相互貸借・文献複写・コンピュータによる文献所在調査・資料の分担保存・書誌情報作成上の協力等々と思いつきますが、専門・規模・管理システムなどかなり各館の実態に相違があると推察されます。どのあたりに20館の共通項が見出せるでしょうか。

高崎商科短期大学

この協議会におきまして、日頃、感じていることや考えていることを気軽に話し合える場があるといいなと思っております。

何分にも勉強不足なものですからみなさんのご意見をいろいろな面で参考にさせていただければと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

新島学園女子短期大学

小規模な図書館で蔵書も少ないので、相互協力に依じられるか不安です。一方通行になるのではと思われませんが、宜しく願ひ申し上げます。

現状の蔵書構成からしますと、キリスト教関係の圖書の充実を更に進めていく事で、お役に立てる時があるかも知れません。学校の特色という点でも考えていくべき事と感じています。

前橋市立工業短期大学

今まで県内の大学図書館を結びあう組織がなかったので、この協議会ができたことは本当にすばらしいことだと思います。みんな得手を取りあつて、大学の頭脳部、心臓部を司る誇りを持って学問をささえていくのではありませんか。理論だけではなく、現場の生きた声を礎石として、この会をみんなで大切に育てていきましょう。

明和女子短期大学

大学図書館は、各大学の特性や

専門分野が中心の資料が収納されているが、昨今の膨大な量の資料からは、個々の館だけでは不十分なのは当然で、これを補うために各館が協調することで、それぞれの特性が有効に相互利用されることが推進されて欲しいものです。

上武大学附属図書館

システム見学

—平成七年度
 大学図書館研究会—

十月二十七日(金)、平成七年度大学図書館研究会(群馬県図書館協会共催)が、上武大学附属図書館経営情報学部分館・同商学部分館を会場にして実施された。

改装されたばかりの新町キャンパスでは、同大学のコンピュータシステムと心臓部と言われるコンピュータセンターを見学。両キャンパスをネットワーク化している。端末台数の多さには、驚いた。

見学終了後、伊勢崎キャンパスへ移動。この日は、大学祭(雑草祭)でにぎやかだった。図書館棟は、地上5階塔屋1階、延床面積



システムの説明を聞く参加者たち

五、四八七・六六㎡、総工費18億円の近代的建物。前庭には、花には水を「の」モニュメントが立ち、人目をひいた。主催者を代表して協議会会長群馬大学附属図書館長永倉一郎氏、県図書館協会幹事群馬県立図書館内奉仕課長村瀬孝司氏、会場大学の上武大学学長町田貞氏の挨拶。出席者自己紹介。

終了後、研修に移り、今回の見学の中心である上武大学附属図書館システムILIS/X-WR(富士通UNIX図書館情報システム)について、開発者である富士通(株)第三システム事業部の白石由紀子氏より、システムの概要説明をうけた。このシステムは、平成七年十月現在、40の国立大学等が採用している大型システムである。

それぞれの図書館の特性に合わせて、クライアント・サーバ方式による分散システムを採用し、資料の貸出・返却・登録、検索、目録作成等をサポートし、高品質な情報管理と利用者サービスの向上を実現している。情報検索にあたっては、館内から、24時間資料情報の検索が可能。

館内見学では、中央カウンターでコンピュータの操作や、広々とした館内を各自見学。教育、研究施設の充実ぶりに溜息をつきながら、帰途についた。現場の声も、合わせて伺えると良かった。上武大学の皆様、ありがとうございました。(小山)

20 館 が 集 ま る と ・ ・ ・

『日本の図書館 1994』（日図協）・『全国大学一覧』平成7年（文部省）及び『会員名簿 1995』に現れてくる統計などを参考にして協議会加盟館全体を眺めてみました。設置母体や学部・学科などの多様さ、150万冊を超える蔵書や1万タイトル以上の雑誌など。さて、今後これらの資料を協議会加盟館の学生や研究者にどう提供できるか、各館の事情を考慮しながらも、知恵を出し合って「提供の仕方」を考えてゆきたいと思います。

- ・参加加盟館 20館（国立4年制／3^{*}、公立4年制／2、私立4年制／3、公立短大／2、私立短大／9、高専／1）
- ＊分館を含む
- ・職員 104人（非常勤職員、学生パート等を含む）
- ・所蔵資料 1,531,000冊（内 洋書 371,000冊）
- ・受入雑誌数 13,453タイトル
（日本語）（10,711）
（外国語）（2,742）
- ・学部数 9学部（社会情報学・法学・経済学・経営情報学・商学・教育学・医学・工学・文学）
- ・学科・科・講座 40学科・10科・17講座

- [社会情報・社会／情報行動・政策／行政情報・国際文化・法学・経済学・経営学・経営情報学・商学・学校教育・国語教育・社会科教育・数学教育・理科教育・障害児教育・医学・看護学・衛生技術・理学／作業療法学・診療放射線学・保育学・生活科学・家政教育・建設／建築工学・土木工学・機械工学・機械システム工学・物質工学・材料工学・応用化学・生物化学工学・情報工学・技術教育・電気電子工学・電子情報・美学美術史・美術（教育）・音楽（教育）・保健体育・国文学・英語（教育）・英文学・秘書]
- ・研究科（大学院） 6科（法学・経済学・教育学・医学・工学・文学）

平成7年度事業計画

1. 相互協力便覧・図書館職員名簿の作成

図書館職員名簿の書式については、『群馬県の図書館』にない、『相互協力便覧』と合わせて作成することとし、今後のスケジュールや具体的作業分担については、運営委員会で相談しながら進めていくこととした。

2. 大学図書館研究会の実施

群馬県図書館協会との共催事業として、その具体化に向けて同協会とも連絡をとり、上武大学と運営委員会で相談しながら進めていくこととした。

3. 相互協力連絡紙の発行

連絡紙の目的を加盟各館の情報を盛り込んだ伝言板的なものとするのを確認し、具体的な作業については、久保木（前橋市立工業短大）、小山（新島学園女子短大）、瀧澤（群馬大学）の3氏が編集委員として連絡を取り合っており、運営委員会と相談しながら進めていくこととした。

4. 運営委員会、総会の開催

各事業の進行状況に合わせて運営委員会を開催する。（平成7年9月に予定）大学図書館研究会は、平成7年10月に開催する。また、次回総会については、今年度の活動報告、次年度の事業計画、役員改選等を議題として、次年度に十分な活動期間を確保するため平成8年3月に開催を予定することとした。

平成7年度予算

収入の部	
会費	85,000円 (5,000円×17)
群馬県図書館協会	
大学図書館研究会費	15,000円
計	100,000円
支出の部	
A事業費	74,500円
1. 大学図書館研究会	22,500円
2. 相互協力連絡紙(印刷費)	40,000円 (A4版、4頁、2回、200部)
3. 相互協力便覧(コピー代)	12,000円 (60頁、20部)
B事務費	20,500円
1. 会議資料(コピー代)	8,000円 (10頁、40部、2回)
2. 通信費	12,500円 (80円×2回、190円×3回)
C予備費	5,000円
計	100,000円

編集後記

『会報』創刊号をお送りします。加盟館全館から原稿をいただきありがとうございます。『図書館の相互協力』をこれからどう展開していくか、いろいろご意見やアイデアをお寄せいただきました。

当初、「加盟館内の情報交換の場」と考えておりました連絡紙は、『からつ風通信』として『会報』の姉妹編としました。日常業務に密着した内容のものを載せていく予定です。年度内発行をめざしますのでご協力ください。

『通信』『会報』ともに、原稿は常時受け付けています。編集委員までFAXや郵送でお送りください。お待ちしています。（K）

「研究会冒頭の上武大学須藤館長のお話の中で、読後感想文コンクールを実施とありました（昭和63年から実施。毎年、三百編ほどの応募があるとのこと）。読書離れの進む昨今、図書館に足を向ける一つの方法として、本に親しむきっかけとなるのではないかと心にとまりました。（M）



上武大学 商学部分館